

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄								備考
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ 設置者		コクリツダ イガクホジシ ユンマダ イガク 国立大学法人 群馬大学								
フリガナ 大学の名称		グンマダ イガクダ イガクイン 群馬大学大学院（Gunma University Graduate School）								
大学本部の位置		群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地								
大学の目的		群馬大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。この目的に基づき、幅広く豊かな学識に立脚し、専門分野において創造性豊かに自立して研究活動を実践でき、高度な専門性・国際性を必要とする職業を担うための能力を身に付け、研究者・技術者・高度専門職業人としての倫理観を身に付けている人物を養成する。								
新設研究科等の目的		地球や人類の健康を維持する健康社会の実現に向け、「食」を通じた地球規模の健康社会の課題解決及び高付加価値食品の開発を通じた生産・流通・消費に関わる環境健全性向上や産業活性化に資する人材の輩出及びイノベーションを創出するため、医科学、保健学、食品科学、食品生産工学、環境科学を分野横断的に教育、研究し、高い俯瞰力、総合知を備えた人材を継続的に育成する。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 食健康科学研究科 食健康科学専攻（修士課程） 14条特例の実施
	食健康科学研究科 (Graduate School of Food and Population Health Sciences) 食健康科学専攻 (博士後期課程) (Department of Food and Population Health Sciences) 計	3年	4人	1人	12人	博士（食健康科学） (Doctor of Philosophy in Food and Population Health Sciences)	工学関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和9年4月第1年次	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地 群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号 群馬県桐生市天神町一丁目5番1号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		理工学府 理工学専攻（博士後期課程）〔定員減〕（△4）（令和9年4月） 令和9年4月課程名称変更予定 食健康科学研究科 食健康科学専攻 修士課程 → 博士前期課程 ※博士課程の設置に伴い、修士課程を博士前期課程に変更								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	食健康科学研究科 食健康科学専攻 (博士後期課程)	15科目	2科目	3科目	20科目	16単位				

校 地 等	区 分			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地			409,850㎡	0㎡	0㎡	409,850㎡				
	そ の 他			222,184㎡	0㎡	0㎡	222,184㎡				
	合 計			632,034㎡	0㎡	0㎡	632,034㎡				
校 舎				専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
				156,995㎡ (156,995㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	156,995㎡ (156,995㎡)				
講 義 室 等 ・ 新 設 研 究 科 等 の 専 任 教 員 研 究 室				講義室	実験・実習室	演習室	新 設 研 究 科 等 の 専 任 教 員 研 究 室		大学全体の数		
				98室	861室	168室	26室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具	標本	学部等単位での特 定不能なため,大学 全体の数		
			冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点			
	大学等全体		609,044〔181,237〕 (609,044〔181,237〕)	1,956〔597〕 (1,956〔597〕)	22,805〔10,634〕 (22,805〔10,634〕)	8,083〔6,433〕 (8,831〔6,433〕)	7,327 (7,327)	25 (25)			
	計		609,044〔181,237〕 (609,044〔181,237〕)	1,956〔597〕 (1,956〔597〕)	22,805〔10,634〕 (22,805〔10,634〕)	8,083〔6,433〕 (8,831〔6,433〕)	7,327 (7,327)	25 (25)			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費による	
		教員1人当たり研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		設備購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当たり 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
				— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称		群馬大学								令和2年度 より学生 募集停止 令和3年度 より学生 募集停止 令和8年度入学定員増 (20人)
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所在地	
	共同教育学部 学校教育教員養成課程		4年	190人	0年次 人	760人	学士 (教育学)	1.10倍	令和2年度	群馬県前橋市荒牧町 四丁目2番地	
	教育学部 学校教育教員養成課程		4	—	—	—	学士 (教育学)	—	平成11年度	同上	
	情報学部 情報学科		4	170	3年次 10	700	学士 (情報学)	1.10	令和3年度	同上	
	社会情報学部 社会情報学科		4	—	—	—	学士 (社会情報学)	—	平成28年度	同上	
	医学部 医学科		6	110	2年次 15	727	学士 (医学)	1.05	昭和24年度	群馬県前橋市昭和町 三丁目39番22号	
	保健学科		4	160	3年次 10	660	学士 (看護学) 学士 (保健学)	0.98	平成8年度		

	理工学部 (昼間コース)									群馬県桐生市天神町 一丁目5番1号	
	物質・環境類	4	285	3年次 10	1,160	学士 (理工学)	1.06	令和3年度			
	電子・機械類	4	185	3年次 13	766	学士 (理工学)	1.09	令和3年度			
	化学・生物化学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	平成25年度			
	機械知能システム理工学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	平成25年度			
	環境創生理工学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	平成25年度			
	電子情報理工学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	平成25年度			
	(夜間主コース)										令和3年度 より学生 募集停止
	総合理工学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	平成25年度			
	教育学研究科 教育実践高度化専攻 (専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.10	令和2年度		群馬県前橋市荒牧町 四丁目2番地	
	情報学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)	2	60	—	120	修士 (情報学)	0.80	令和6年度		同上	
	情報学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	4	博士 (情報学)	1.75	令和8年度		同上	令和8年度設置
	社会情報学研究科 社会情報学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士 (社会情報学)	—	平成10年度		同上	令和6年度 より学生 募集停止
	医学系研究科 生命医学専攻 (修士課程)	2	13	—	26	修士 (生命医科学)	1.07	平成19年度		群馬県前橋市昭和町 三丁目39番22号	
			【3】		【6】						パブリックヘルス学環博士 前期課程の内数とする定員
			【3】		【6】						医理工レギュラトリーサイ エンス学環博士前期課程の 内数とする定員
	医科学専攻 (博士課程)	4	55	—	224	博士 (医学)	1.09	平成15年度			令和7年度入学定員 減(△2人)
			【1】		【1】						パブリックヘルス学環博士 後期課程の内数とする定員
			【1】		【1】						医理工レギュラトリーサイ エンス学環博士後期課程の 内数とする定員
	保健学研究科 保健学専攻 (博士前期課程)	2	50	—	100	修士 (看護学) 修士 (保健学)	1.18	平成23年度		同上	
			【2】		【4】						パブリックヘルス学環博士 前期課程の内数とする定員
	保健学専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (看護学) 博士 (保健学)	2.03	平成23年度			
			【1】		【1】						パブリックヘルス学環博士 後期課程の内数とする定員

理工学府 理工学専攻 (博士前期課程)	2	223	—	446	修士 (理工学)	1. 30	平成25年度	群馬県桐生市天神町 一丁目5番1号	医理工レギュラトリーサイ エンス学環博士前期課程の 内数とする定員
		【2】		【4】					
理工学専攻 (博士後期課程)	3	30	—	103	博士 (理工学)	1. 19	平成25年度		令和7年度入学定員 減(△5人) 令和8年度入学定員 減(△4人) 医理工レギュラトリーサイ エンス学環博士後期課程の 内数とする定員
		【1】		【1】					
食健康科学研究科 食健康科学専攻 (修士課程)	2	40	—	80	修士 (食健康科学)	1. 17	令和7年度	群馬県前橋市荒牧町 四丁目2番地 群馬県前橋市昭和町 三丁目39番22号 群馬県桐生市天神町 一丁目5番1号	令和7年度設置
パブリックヘルス学環 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (社会健康医学)	1. 20	令和6年度	群馬県前橋市昭和町 三丁目39番22号	
パブリックヘルス学環 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士 (社会健康医学)	1. 00	令和8年度	同上	令和8年度設置
医理工レギュラトリー サイエンス学環 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (医理工学)	1. 10	令和6年度	群馬県桐生市天神町 一丁目5番1号 群馬県前橋市昭和町 三丁目39番22号	
医理工レギュラトリー サイエンス学環 (博士後期課程)	3	2	—	2	博士 (医理工学)	1. 50	令和8年度	同上	令和8年度設置

附属施設の概要	名称：群馬大学医学部附属病院 目的：患者の安全を第一とする高度な医療安全管理体制を確保し，その体制下で先進的医療を提供するとともに，次代を担う医療人育成のための教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地：群馬県前橋市昭和町三丁目39番15号 設置年月：昭和24年 5 月 規模等：建物92, 547㎡	
	名称：医学系研究科附属生物資源センター 目的：実験動物の飼育管理及び高次の実験を行い，医学教育及び研究の向上発展に資することを目的とする。 所在地：群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年 4 月 規模等：建物4, 986㎡	
	名称：医学系研究科附属薬剤耐性菌実験施設 目的：種々の病原菌を用い，疫学，生化学及び分子遺伝学的方法をもって，薬剤耐性菌についての基礎的及び応用的課題を解明するとともに，薬剤耐性菌の収集・保存及び配布することを目的とする。 所在地：群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号 設置年月：平成15年 4 月 規模等：建物251㎡	
	名称：共同教育学部附属教育実践センター 目的：教育実践に関する臨床の学の創出を目指し，教育関係諸機関と連携し，教育実習，教育実践及び教育相談に関する理論的・実践的研究を行うとともに，それらの成果を踏まえた教育，研修及び支援を行い，豊かな教育実践力と子どもの成長をめぐる諸問題の解決力を身につけた学校教員の養成及び学校の教育力の向上に寄与することを目的とする。 所在地：群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地 設置年月：令和 2 年 4 月 規模等：建物228㎡	
	名称：共同教育学部附属小学校 目的：普通教育のうち基礎的なものを施し，かつ小学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに，共同教育学部学生の実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目 8 番 1 号 設置年月：昭和26年 4 月 規模等：土地29, 753㎡（附属特別支援学校と共有）， 建物8, 365㎡	
	名称：共同教育学部附属中学校 目的：普通教育を施し，かつ中学校教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに，共同教育学部学生の実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市上沖町612番地 設置年月：昭和26年 4 月 規模等：土地37, 430㎡， 建物6, 700㎡	
	名称：共同教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して，小学校，中学校又は高等学校に準ずる教育を施し，あわせて自立を図るために必要な知識技能を授け， かつ教育の理論及び実際に関する研究並びに実証に寄与するとともに，共同教育学部学生の実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目 8 番 1 号 設置年月：昭和54年 4 月 規模等：土地29, 753㎡（附属小学校と共有）， 建物4, 008㎡	
	名称：共同教育学部附属幼稚園 目的：幼児を保育し，適当な環境を与えて，その心身の発達を助長するとともに， 幼児の保育に関する研究及び共同教育学部学生の実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：群馬県前橋市若宮町二丁目 5 番 3 号 設置年月：昭和26年 4 月 規模等：土地5, 150㎡， 建物978㎡	

国立大学法人群馬大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
群馬大学				群馬大学				
共同教育学部 学校教育教員養成課程	190	－	760	共同教育学部 学校教育教員養成課程	190	－	760	
情報学部 情報学科	170 ^{3年次}	10	700	情報学部 情報学科	170 ^{3年次}	10	700	
医学部 医学科	110 ^{2年次}	15	635	医学部 医学科	90 ^{2年次}	15	615	定員変更（△20）
保健学科	160 ^{3年次}	10	660	保健学科	160 ^{3年次}	10	660	医学部医学科の入学定員20名の増加については、令和8年度までの措置。
理工学部 物質・環境類	285 ^{3年次}	10	1,160	理工学部 物質・環境類	285 ^{3年次}	10	1,160	
電子・機械類	185 ^{3年次}	13	766	電子・機械類	185 ^{3年次}	13	766	
計	1,100 ^{2年次 3年次}	15 43	4,681	計	1,080 ^{2年次 3年次}	15 43	4,661	定員変更（△20）
群馬大学大学院				群馬大学大学院				
教育学研究科 教育実践高度化専攻（P）	20	－	40	教育学研究科 教育実践高度化専攻（P）	20	－	40	
情報学研究科 情報学専攻（M） 情報学専攻（D）	60 4	－ －	120 12	情報学研究科 情報学専攻（M） 情報学専攻（D）	60 4	－ －	120 12	
医学系研究科 生命医科学専攻（M） （うち、生命医科学専攻（M）からパブリックヘルス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） （うち、生命医科学専攻（M）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 医科学専攻（D） （うち、医科学専攻（D）からパブリックヘルス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数） （うち、医科学専攻（D）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	13 (3) (3) 55 (1) (1)	－ － － － －	26 (6) (6) 220 (3) (3)	医学系研究科 生命医科学専攻（M） （うち、生命医科学専攻（M）からパブリックヘルス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） （うち、生命医科学専攻（M）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 医科学専攻（D） （うち、医科学専攻（D）からパブリックヘルス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数） （うち、医科学専攻（D）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	13 (3) (3) 55 (1) (1)	－ － － － －	26 (6) (6) 220 (3) (3)	
保健学研究科 保健学専攻（M） （うち、保健学専攻（M）からパブリックヘルス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 保健学専攻（D） （うち、保健学専攻（D）からパブリックヘルス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	50 (2) 10 (1)	－ － － －	100 (4) 30 (3)	保健学研究科 保健学専攻（M） （うち、保健学専攻（M）からパブリックヘルス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 保健学専攻（D） （うち、保健学専攻（D）からパブリックヘルス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	50 (2) 10 (1)	－ － － －	100 (4) 30 (3)	
理工学府 理工学専攻（M） （うち、理工学専攻（M）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 理工学専攻（D） （うち、理工学専攻（D）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	223 (2) 30 (1)	－ － － －	446 (4) 90 (3)	理工学府 理工学専攻（M） （うち、理工学専攻（M）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（M）の内数とする入学定員数及び収容定員数） 理工学専攻（D） （うち、理工学専攻（D）から医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）の内数とする入学定員数及び収容定員数）	223 (2) 26 (1)	－ － ＝ －	446 (4) 78 (3)	定員変更（△4）
食健康科学研究科 食健康科学専攻（M）	40	－	80	食健康科学研究科 食健康科学専攻（M） 食健康科学専攻（D）	40 4	－ ＝	80 12	課程変更（設置報告）
パブリックヘルス学環（M） パブリックヘルス学環（D）	(5) (2)	－ －	(10) (6)	パブリックヘルス学環（M） パブリックヘルス学環（D）	(5) (2)	－ －	(10) (6)	
医理工レギュラトリーサイエンス学環（M） 医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）	(5) (2)	－ －	(10) (6)	医理工レギュラトリーサイエンス学環（M） 医理工レギュラトリーサイエンス学環（D）	(5) (2)	－ －	(10) (6)	
計	505	－	1,164	計	505	－	1,164	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 了 学 部 等 の 学 年 進 行 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
理工学府 理工学専攻 (博士後期課程)	博士 (理工学)	理学関係 工学関係	食健康科学研究科 食健康科学専攻 (博士後期課程)	14	4	食健康科学研究科 食健康科学専攻 (博士後期課程)	博士 (食健康科学)	工学関係 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	理工学府 理工学専攻 (博士後期課程)	14	4
			理工学府 理工学専攻 (博士後期課程)	106	61				保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	1	1
									その他	10	2
									新規採用	1	0
			計	120	65				計	26	7
保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	博士 (保健学) 博士 (看護学)	保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	食健康科学研究科 食健康科学専攻 (博士後期課程)	1	1	理工学府 理工学専攻 (博士後期課程)	博士 (理工学)	理学関係 工学関係	理工学府 理工学専攻 (博士後期課程)	106	61
			保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	39	26						
			計	40	27				計	106	61
						保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	博士 (保健学) 博士 (看護学)	保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	保健学研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	39	26
									計	39	26

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
平成13年4月	医学系研究科 保健学専攻(博士前期課程) 設置	保健衛生学関係	設置認可(研究科)
平成15年4月	医学系研究科 保健学専攻(博士後期課程) 設置	保健衛生学関係	設置認可(研究科)
平成23年4月	保健学研究科 保健学専攻(博士前期課程)(博士後期課程) 設置	保健衛生学関係	設置報告(研究科)
平成23年4月	医学系研究科 保健学専攻の学生募集停止	-	学生募集停止(専攻)
平成25年4月	理工学府 理工学専攻(博士前期課程)(博士後期課程)設置	理学関係 工学関係	設置認可(研究科)
令和7年4月	食健康科学研究科 食健康科学専攻(修士課程)設置	工学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置認可(研究科)
令和9年4月	食健康科学研究科 食健康科学専攻(博士後期課程)設置 修士課程を博士前期課程に変更	工学関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	設置報告(研究科)

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(食健康科学研究科 食健康科学専攻 博士後期課程)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員			
必修科目	食健康科学専攻リサーチプロポーザル	1・2・3通		1				○		7	11	3	5					
	国際リサーチコミュニケーション	1・2・3通		1					○	7	11	3	5					
	食健康科学研究特別実験	1・2・3通		6					○	7	11							
	食健康科学研究特別演習	1・2・3通		2				○		7	11							
	小計 (4科目)		—	—	10	0	0	—			7	11	3	5				
選択科目 (専門)	就業力	専門実践インターンシップ	1・2・3通			2				○	7	11	3	5				オムニバス 共同 (一部) オムニバス オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(食健康科学研究科 食健康科学専攻 修士課程)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教 員	
大 学 院 共 通 科 目	アカ デ ミ ク シ ョ ン	Research Skills - Presentation and Writing 効果的なプレゼンスキルとライティ ングスキル	1後		2			○								4	オムニバス
		小計（1科目）	—	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	4	
	サイ エ ン ス	Pythonによる数理解析	1後			2		○								1	
		画像処理と実践応用演習	1後			2		○								1	
	小計（2科目）	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	2		
	サイ レ ギ ュ ラ ト リ ー	レギュラトリーサイエンス概論	1後		2			○				2				14	
小計（1科目）		—	—	2	0	0	—			0	2	0	0	0	14		
必 修	食健康科学概論	1・2通		2			○				6	8				オムニバス	
	食健康科学特別実験	1・2通		8					○		6	10	3	7			
	食健康科学特別演習	1・2通		4					○		6	10	3	7			
	小計（3科目）	—	—	14	0	0	—			6	10	3	7	0	0		
選 択 必 修	実践食品イノベーション特論	1・2通			2		○				1					1	オムニバス
	食品科学特論	1・2通			1		○					1	1	2		4	オムニバス
	食品生産工学特論	1・2通			1		○					1	1	3		3	オムニバス
	食健康医科学特論	1・2通			2		○						1			14	オムニバス
	バイオデータ解析・統計特論	1・2通			2		○									2	オムニバス
	食健康科学ティーチング実習	1・2通			2					○	6	10	3	7			
	小計（6科目）	—	—	0	10	0	—			6	10	3	7	0	24		
選 択	(A) 食 品 工 学 系	バイオプラスチックデザイン工学特論	1・2通		2		○									3	オムニバス
		食品化学工学特論	1・2通		2		○					1				1	オムニバス
		センサ・電子計測特論	1・2通		2		○				1						
		食品・生物工学特論	1・2通		2		○					2					オムニバス
		環境分析科学特論	1・2通		2		○				1	1					オムニバス
		バイオプラスチック特論	1・2通		2		○				1	1					オムニバス
	(B) 健 康 科 学 系	栄養生理学特論	1・2通		2		○				2						オムニバス
		アグリフーズ・バイオ特論	1・2通		2		○						1				
		健康栄養特論	1・2通		2		○					2					オムニバス
		ヘルスサイエンス特論	1・2通		2		○				1	2	1				オムニバス
		予防医学特論	1・2通		2		○					1	1				オムニバス
	イン タ ー ン シ ッ プ	インターンシップⅠ	1・2通		1					○	6	10	3				
		インターンシップⅡ	1・2通		2					○	6	10	3				
		国際インターンシップⅠ	1・2通		1					○	6	10	3				
		国際インターンシップⅡ	1・2通		2					○	6	10	3				
小計（15科目）		—	—	0	28	0				6	10	3	0	0	4		
合計（28科目）			—	—	18	42	0				6	10	3	7	0	46	

学位又は称号	修士（食健康科学）	学位又は学科の分野	工学関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法			授業期間等	
修了要件は、以下の要件を満たし、32単位以上を修得するとともに、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 1. 大学院共通科目6単位以上を修得（アカデミックコミュニケーションから2単位、データサイエンスから2単位以上、レギュラトリーサイエンスから2単位） 2. 必修科目14単位を修得 3. 選択必修科目を6単位以上修得 4. 選択科目を6単位以上修得（(A)食品工学系から2単位以上、(B)健康科学系から2単位以上）			1 学年の学期区分	2期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(保健学研究科 保健学専攻 博士後期課程)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基幹 (助手を 除く) 教員以外 の教員		
共通 コア	医学哲学・倫理学セミナー	1・2通			2			○		1					1	集中講義 メディア	
	保健学特別セミナー	1・2通			2			○		1							
	医療政策学・医療経済学特講	1・2後			2			○		1							
	研究倫理特講	1前		1			○		3						3		
	研究倫理特講（Eラーニング）	1前		1			○		1								
	医療人のための教育学Ⅰ	1・2前			2			○		1					4		
	医療人のための教育学Ⅱ	1・2後			2			○		3	1				2		
	多職種連携医療安全学特講	1・2後			2			○		5	2						
	保健学研究概論（英語履修コース）（※）	1通		2			○		1								
小計（8科目）		—	—	4	12	0	—			8	3	0	0	0	7		
看護学 領域	看護学研究概論		1通		2			○			1						
	基礎	基礎看護学特講	1・2前			2			○		2						1
		基礎看護学演習	1・2後			2				○		2					
		看護管理学特講	1・2前			2			○			1					
		看護管理学演習	1・2後			2			○			1					
		精神看護学特講	1・2前			2			○		1						
		精神看護学演習	1・2後			2				○	1						
		基礎看護学特別研究	3通			4			○		3						
	応用	慢性・がん看護学特講	1・2前			2			○		3						オムニバス オムニバス
		慢性・がん看護学演習	1・2後			2				○	3						
		母子看護学・助産学特講	1・2前			2			○		3						
		母子看護学・助産学演習	1・2後			2				○	3						
		応用看護学特別研究	3通			4				○	7						
		基礎腫瘍学	1・2通			1			○		2	1					
		臨床腫瘍学概論	1・2通			1			○		2	1					
		精神・社会腫瘍学と患者教育	1・2通			1			○		2	1					
		医療ケアとチーム医療	1・2通			1			○		2	1					
		がんゲノム医療（看護）学	1・2通			1			○		2	1					
		小児・AYA・希少がん看護学	1・2通			1			○		2	1					
		がんライフ・QOL看護学	1・2通			1			○		2	1					
		がん治療を支える多領域連携	1・2通			1			○		2	1					
	がんデータ科学推進	1・2通		1			○		2	1							
	がん治療イノベーション	1・2通		1			○		2	1							
	地域・ 国際	老年看護学特講	1・2前			2			○		1						オムニバス
		老年看護学演習	1・2後			2				○	1						
		在宅看護学特講	1・2前			2			○		1						
		在宅看護学演習	1・2後			2				○	1						
		地域看護学特講	1・2前			2			○		1						
		地域看護学演習	1・2後			2				○	1						
		国際看護学特講	1・2前			2			○			1					
		国際看護学演習	1・2後			2				○		1					
		生活習慣病疫学特講	1・2前			2			○		1						
		生活習慣病疫学演習	1・2後			2				○	1						
		地域・国際看護学特別研究	3通			4				○	4						
	小計（36科目）		—	—	2	62	0	—			13	3	0	0	0	1	
	生体情報 検査科学 領域	生体情報検査科学研究概論		1後		2			○			5	3				1
基礎		分子情報分析科学特講	1・2前			2			○		2	1				6	オムニバス
		分子情報分析科学演習	1・2後			2				○	2	1				3	オムニバス
		基礎情報科学特別研究	3通			4				○	2	1				オムニバス	
応用		機能情報解析科学特講	1・2前			2			○		1	1					オムニバス
		機能情報解析科学演習	1・2後			2				○	1	1					オムニバス
		組織・細胞情報解析科学特講	1・2前			2			○		2						オムニバス
		組織・細胞情報解析科学演習	1・2後			2				○	2						オムニバス
		応用情報科学特別研究	3通			4				○	3	1					オムニバス
地域・ 国際		地域・国際疫学特講	1・2前			2			○		1	1					
		地域・国際疫学演習	1・2後			2				○	1	1					
		地域・国際情報科学特別研究	3通			4				○	1	1					
小計（12科目）		—	—	2	28	0	—			6	3	0	0	0	8		

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
リハビリテーション学領域		リハビリテーション学研究概論	1 前		2			○			1						
	基礎	基礎理学療法学特講	1・2 前		2			○			1	1					オムニバス
		基礎理学療法学演習	1・2 後		2				○		1	1					オムニバス
		基礎作業療法学特講	1・2 前		2			○			3						オムニバス
		基礎作業療法学演習	1・2 後		2				○		3						オムニバス
		基礎リハビリテーション学特別研究	3 通		4				○		4	1					オムニバス
	応用	精神・脳機能障害リハビリテーション学特講	1・2 前		2			○			1						オムニバス
		精神・脳機能障害リハビリテーション学演習	1・2 後		2				○		1						オムニバス
		健康・スポーツ障害リハビリテーション学特講	1・2 前		2			○			2						
		健康・スポーツ障害リハビリテーション学演習	1・2 後		2				○		2						
		応用リハビリテーション学特別研究	3 通		4				○		1						
	地域・国際	地域・国際リハビリテーション学特講	1・2 前		2			○			1						
		地域・国際リハビリテーション学演習	1・2 後		2				○		1						
		地域・国際リハビリテーション学特別研究	3 通		4				○		2						
	小計（14科目）	—	—	2	32	0	—			8	1	0	0	0	0		
合計（70科目）			—	—	10	134	0	—			27	8	0	0	0	16	
学位又は称号		博士（保健学）・博士（看護学）			学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学関係）、保健衛生学関係（リハビリテーション関係）、保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）							
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
修了要件は、以下の要件を満たし、博士後期課程に3年以上在学して所定の単位（14単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間については、優れた研究業績を上げた者と研究科長が認めた場合は、2年以上在学すれば足りるものとする。										1 学年の学期区分				2 期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業時間				90分			
必修科目として研究倫理特講1単位、研究倫理特講（Eラーニング）1単位（ただし、博士前期課程から博士後期課程に内部進学し、研究倫理特論および研究倫理特論（Eラーニング）の単位を修得済みの学生は、研究倫理特講の履修は不要であるが、別途既修得単位認定の申請を行った上で、研究倫理特講（Eラーニング）のみ履修すること）、所属する領域の研究概論2単位並びに指導教員等の開講する特講2単位、演習2単位及び特別研究4単位を履修する。																	
選択科目として共通コア科目を2単位履修する。																	
（※）の科目は留学生用英語履修コースの者のみ履修できる																	
留学生用英語履修コース																	
必修科目として研究倫理特講1単位、研究倫理特講（Eラーニング）1単位（ただし、博士前期課程から博士後期課程に内部進学し、研究倫理特論および研究倫理特論（Eラーニング）の単位を修得済みの学生は、研究倫理特講の履修は不要であるが、別途既修得単位認定の申請を行った上で、研究倫理特講（Eラーニング）のみ履修すること）、所属する領域の研究概論2単位並びに指導教員等の開講する特講2単位、演習2単位及び特別研究4単位を履修する。																	
選択科目として、指導教員等が指定する英語対応している科目（特別研究を除く）を2単位履修する																	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(理工学府 理工学専攻 物質・生命理工学領域 博士後期課程)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く) 以外の教員		
理工学府 理工学専攻 物質・生命理工学領域	学 府 共 通 専 門 科 目	理工学専攻リサーチプロポーザル	1・2・3通		1				○		65	55				8		
		国際インターンシップ	1・2・3通		1					○	65	55				8		
		上級長期インターンシップ	1・2・3通			2				○	65	55				8		
		研究人材就業力養成基礎	1・2・3前		2			○			1							
		実践アントレプレナーシップ特論	1・2・3前			1		○			1							
		実践研究リーダーシップ特論	1・2・3前			1		○			1							
		実践グローバル研究特論	1・2・3前			1		○			1							
		日本語中級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1		
		日本語中級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1		
		日本語上級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1		
		日本語上級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1		
		理工学研究特別演習	1・2・3通		2				○		65	47				8		
		理工学研究特別実験	1・2・3通		6					○	65	47				8		
	小計 (13科目)		—	—	12	5	4	—			65	55	0	0	0	10		
	専 門 開 放 科 目	医工連携先端荷電ビーム特論 (★)	1・2・3後			2		○			1						集中講義	
		医工連携放射線制御・計測特論 (★)	1・2・3前			2		○			1							
		医工連携先進イオンビーム応用工学特論 (★)	1・2・3後			2		○			2							
		医工連携システムと制御工学特論 (★)	1・2・3後			2		○			1							
		医用画像基礎原理特論	1・2・3通			2		○							1			
	小計 (5科目)		—	—	0	10	0	—			5	0	0	0	0	1		
	物 質 ・ 生 命 理 工 学 領 域	領 域 専 門 科 目	光化学特論	1・2・3後			2		○			1					1	
			分子化学特論	1・2・3後			2		○			1						
			分光分析化学特論	1・2・3前			2		○			1						
			錯体化学特論	1・2・3前			2		○			1						
			有機化学特論	1・2・3前			2		○			1						
			有機触媒化学特論	1・2・3後			2		○			1						
			無機物性化学特論	1・2・3前			2		○			1						
			システム材料化学特論	1・2・3前			2		○			1						
			光機能有機材料特論	1・2・3後			2		○			1						
			界面物性工学特論	1・2・3前			2		○			1						
			複合体機能工学特論 (★)	1・2・3後			2		○			1						
			高分子物性工学特論	1・2・3後			2		○			1						
			生体関連化学特論	1・2・3前			2		○			1						
生体機能化学特論			1・2・3後			2		○			1							
生体材料化学特論			1・2・3前			2		○			1							
生体物質化学特論			1・2・3後			2		○			1							
生体分子計測学特論			1・2・3後			2		○			1							
無機光化学特論			1・2・3後			2		○			1							
ナノ材料電極化学特論			1・2・3前			2		○			1							
酸化物材料科学特論			1・2・3前			2		○			1							
高分解能分光計測学特論			1・2・3前			2		○			1							
小計 (21科目)			—	—	0	42	0	—			21	0	0	0	0	1		
技 術 実 習 科 目 専 門 分 野			他分野研究実習	1・2・3通				2			○	1						
	研究発表討論セミナー	1・2・3通				1		○		1								
	小計 (2科目)		—	—	0	0	3	—			1	0	0	0	0	0		
合計 (41科目)			—	—	12	57	7	—			65	55	0	0	0	13		

学位又は称号	博士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修了要件は、以下の要件を満たし、学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得することとする。 理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分
・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工連携科目は修了要件の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。 ・日本語中級Ⅰ・Ⅱ及び上級Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。 ・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。			

教 育 課 程 等 の 概 要																
（理工学府 理工学専攻 知能機械創製理工学領域 博士後期課程）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助 手 を 除 く） 教員 以外の 教員	
学 府 共 通 専 門 科 目	理工学専攻リサーチプロポーザル	1・2・3通		1				○		65	55				8	
	国際インターンシップ	1・2・3通		1					○	65	55				8	
	上級長期インターンシップ	1・2・3通			2				○	65	55				8	
	研究人材就業力養成基礎	1・2・3前		2			○			1						
	実践アントレプレナーシップ特論	1・2・3前			1		○			1						
	実践研究リーダーシップ特論	1・2・3前			1		○			1						
	実践グローバル研究特論	1・2・3前			1		○			1						
	日本語中級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1	
	日本語中級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1	
	日本語上級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1	
	日本語上級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1	
	理工学研究特別演習	1・2・3通		2				○		65	47				8	
	理工学研究特別実験	1・2・3通		6					○	65	47				8	
	小計（13科目）	—	—	12	5	4	—			65	55	0	0	0	10	
専 門 科 開 放	医工連携先端荷電ビーム特論（★）	1・2・3後			2		○			1						集中講義
	医工連携放射線制御・計測特論（★）	1・2・3前			2		○			1						
	医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	1・2・3後			2		○			2						
	医用画像基礎原理特論	1・2・3通			2		○								1	
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			4	0	0	0	0	1	
知 能 機 械 創 製 理 工 学 領 域	熱流体力学特論	1・2・3前			2		○			1						
	エネルギーシステム特論	1・2・3後			2		○			1						
	エネルギー計測学特論	1・2・3後			2		○			1						
	構造リスク工学特論	1・2・3後			2		○			1						
	材料システム特論	1・2・3前			2		○			1						
	先端加工学特論	1・2・3後			2		○			1						
	先端材料加工プロセス特論	1・2・3前			2		○			1						
	構造のダイナミクス特論（★）	1・2・3前			2		○			1						
	計測学特論	1・2・3後			2		○			1						
	医工連携システムと制御工学特論（★）	1・2・3後			2		○			1						
	計算機工学特論	1・2・3後			2		○				1					
	マイクロナノ工学特論	1・2・3後			2		○			1						
	熱流体シミュレーション特論	1・2・3後			2		○			1						
	モデルベースデザイン特論	1・2・3後			2		○			1						
	マンマシンインタフェース特論	1・2・3後			2		○			1						
	非線形系のダイナミクス特論	1・2・3前			2		○			1						
	知能・制御のための数理データサイエンス特論	1・2・3前			2		○			1						
	研究発表討論セミナーⅠ	1・2・3後			1			○		1						
	研究発表討論セミナーⅡ	1・2・3後			1			○		1						
	研究発表討論セミナーⅢ	1・2・3後			1			○		1						
	研究発表討論セミナーⅣ	1・2・3後			1			○		1						
	研究発表討論セミナーⅤ	1・2・3後			1			○		1						
	研究発表討論セミナーⅥ	1・2・3後			1			○		1						
	リーダーシップ特論Ⅰ	1・2・3後			2		○			1						
	リーダーシップ特論Ⅱ	1・2・3前			2		○			1						
	小計（23科目）	—	—	0	44	0	—			15	1	0	0	0	0	

技術実習科目 リーディング専門分野	他分野研究実習	1・2・3通			2		○	○	1						
	研究発表討論セミナー	1・2・3通			1				1						
	小計（2科目）	—	—	0	0	3	—			1	0	0	0	0	0
合計（42科目）		—	—	12	57	7	—			65	55	0	0	0	13
学位又は称号		博士（理工学）			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件は、以下の要件を満たし、学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得することとする。 理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。							1 学年の学期区分				2 期				
							1 学期の授業期間				15週				
							1 時限の授業時間				90分				
・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工連携科目は修了要件の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）に入学した者は、 博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。 ・日本語中級Ⅰ・Ⅱ及び上級Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。 ・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。															

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(理工学府 理工学専攻 環境創生理工学領域 博士後期課程)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員		
環境創生理工学領域	学府共通専門科目	理工学専攻リサーチプロポーザル	1・2・3通		1				○		65	55				8		
		国際インターンシップ	1・2・3通		1					○	65	55				8		
		上級長期インターンシップ	1・2・3通			2				○	65	55				8		
		研究人材就業力養成基礎	1・2・3前		2			○		1								
		実践アントレプレナーシップ特論	1・2・3前			1		○		1								
		実践研究リーダーシップ特論	1・2・3前			1		○		1								
		実践グローバル研究特論	1・2・3前			1		○		1								
		日本語中級Ⅰ	1・2・3前				1	○							1			
		日本語中級Ⅱ	1・2・3後				1	○							1			
		日本語上級Ⅰ	1・2・3前				1	○							1			
		日本語上級Ⅱ	1・2・3後				1	○							1			
		理工学研究特別演習	1・2・3通		2				○	65	47				8			
		理工学研究特別実験	1・2・3通		6					65	47				8			
		小計（13科目）					12	5	4	—			65	55	0	0		0
	学府開放専門科目	医工連携先端荷電ビーム特論（★）	1・2・3後			2		○			1						集中講義	
		医工連携放射線制御・計測特論（★）	1・2・3前			2		○			1							
		医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	1・2・3後			2		○			2							
		医工連携システムと制御工学特論（★）	1・2・3後			2		○			1							
		医用画像基礎原理特論	1・2・3通			2		○						1				
		小計（5科目）				0	10	0	—			5	0	0	0	0		1
	領域専門科目	エネルギー転換工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		カーボン材料工学特論	1・2・3後			2		○			1							
		環境エネルギー工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		微小環境操作特論	1・2・3前			2		○			1							
		無機分離化学特論	1・2・3後			2		○			1	1						
		環境創生工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		構造設計工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		地盤環境工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		災害社会工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		固体炭素資源転換工学	1・2・3前			2		○			1	1						
		小計（12科目）				0	20	0	—			9	2	0	0	0		0
		技術実習科目 専門分野	他分野研究実習		1・2・3通				2			○	1					
	研究発表討論セミナー		1・2・3通				1		○	1								
	小計（2科目）			0	0		3	—			1	0	0	0	0	0		
合計（32科目）					12		35	7				65	55	0	0	0	13	
学位又は称号		博士（理工学）				学位又は学科の分野				理学関係、工学関係								

卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法	授 業 期 間 等	
修了要件は、以下の要件を満たし、学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得することとする。 理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分
・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工連携科目は修了要件の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。 ・日本語中級Ⅰ・Ⅱ及び上級Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。 ・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(理工学府 理工学専攻 電子情報・数理領域 博士後期課程)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員		
学府共通専門科目		理工学専攻リサーチプロポーザル	1・2・3通		1				○		65	55				8		
		国際インターンシップ	1・2・3通		1					○	65	55				8		
		上級長期インターンシップ	1・2・3通			2				○	65	55				8		
		研究人材就業力養成基礎	1・2・3前		2			○			1							
		実践アントレプレナーシップ特論	1・2・3前			1		○			2							
		実践研究リーダーシップ特論	1・2・3前			1		○			1							
		実践グローバル研究特論	1・2・3前			1		○			1							
		日本語中級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1		
		日本語中級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1		
		日本語上級Ⅰ	1・2・3前				1	○								1		
		日本語上級Ⅱ	1・2・3後				1	○								1		
		理工学研究特別演習	1・2・3通		2				○		65	47				8		
		理工学研究特別実験	1・2・3通		6					○	65	47				8		
		小計（13科目）				12	5	4	—			65	55	0	0	0	10	
専門府科開放		医工連携システムと制御工学特論（★）	1・2・3後			2		○			1							
		医用画像基礎原理特論	1・2・3通			2		○							1			
		小計（2科目）				0	4	0	—			1	0	0	0	0	1	
電子情報・数理領域	領域専門科目	数理解析学特論	1・2・3後			2		○			1						オムニバス	
		応用代数学特論	1・2・3前			2		○				2						
		応用微分方程式特論	1・2・3前			2		○			1							
		電子材料特論	1・2・3前			2		○			1							
		半導体デバイス工学特論	1・2・3前			2		○			1							
		先端計測加工特論	1・2・3前			2		○			2							
		医用工学特論	1・2・3後			2		○				1						
		電子・機械制御応用工学特論	1・2・3前			2		○			1	1						
		高温プラズマ物理学特論	1・2・3前			2		○			1							
		量子電子工学特論	1・2・3前			2		○				2						
		先端プログラミング応用特論	1・2・3後			2		○			2							
		先端波動情報特論	1・2・3前			2		○			1							
		計算知能特論	1・2・3後			2		○				1						
		応用物理学特論	1・2・3後			2		○			1	1						
		固体物理学特論	1・2・3後			2		○			2							
		数理物理学特論	1・2・3後			2		○				1						
		情報数理工学特論	1・2・3後			2		○							1			
		離散システム工学特論	1・2・3前			2		○							1			
		統計科学特論	1・2・3後			2		○							1			
		ソフトコンピューティング特論	1・2・3後			2		○							1			
		プログラミング言語特論	1・2・3後			2		○							1			
		離散最適化理論特論	1・2・3前			2		○							1			
		情報システム工学特論	1・2・3後			2		○							1			
		知識情報工学特論	1・2・3前			2		○							1			
		機械学習理論	1・2・3前			2		○							1			
		動的映像制御特論	1・2・3前			2		○							1			
		医工連携先端荷電ビーム特論（★）	1・2・3後			2		○			1							集中講義
		医工連携放射線制御・計測特論（★）	1・2・3前			2		○			1							
		医工連携先進イオンビーム応用工学特論（★）	1・2・3後			2		○			2							
	認知神経科学特論	1・2・3後		2		○							1					
	小計（31科目）			0	60	0	—			14	9	0	0	0	10			
技術実習科目 専門分野		他分野研究実習	1・2・3通				2			○	1							
		研究発表討論セミナー	1・2・3通				1		○		1							
	小計（2科目）				0	0	3	—			1	0	0	0	0	0		
合計（48科目）					12	69	7				65	55	0	0	0	13		
学位又は称号		博士（理工学）				学位又は学科の分野				理学関係、工学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件は、以下の要件を満たし、学府共通専門科目、学府開放専門科目、全ての領域の領域専門科目の中から、16単位以上修得することとする。 理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ、理工学研究特別実験、理工学研究特別演習及び研究人材就業力養成基礎は必修とする。 ただし、留学生においては国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を、社会人においては理工学専攻リサーチプロポーザル、国際インターンシップ及び研究人材就業力養成基礎を選択科目とする。 ・重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者は、リーディング専門分野技術実習科目3単位を履修すること。 リーディング医理工連携科目（学府開放専門科目及び全領域の領域専門科目中の（★）科目）から2単位以上履修すること。 リーディング医理工連携科目は修了要件の修得単位に含むことができる。 博士後期課程から重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）に入学した者は、博士前期課程開講リーディングコース科目医理工共通科目群の生命倫理と法的規制、関連法規・医療倫理あるいは研究倫理から1単位以上修得すること。 ・日本語中級Ⅰ・Ⅱ及び上級Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可。修了要件単位に含めない。 ・リーディング専門分野技術実習科目は重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム（重粒子線医理工連携コース）在籍者のみ履修可。修了要件単位に含めない。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要				
(食健康科学研究科 食健康科学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
必修 科目	食健康科学専攻リサーチプロポーザル		受講者自身が興味のある分野を選定し、文献調査から当該分野の最新情報を整理し、プレゼンテーションできるよう、指導教員と相談して受講者自身が計画的に進行する。得られた最新情報から新たな研究テーマを提案する。	
	国際リサーチコミュニケーション		海外の技術者・研究者との英語による研究討論の能力を養うために、国際会議、国際的な研究プロジェクトの会合、国際的な研究会、あるいはこれらに準じる場所において、英語による研究発表、海外の研究者との討論・交流等を行い、英語でコミュニケーションする能力の実践的訓練を行う。訓練終了後に成果報告書を作成させることで訓練の成果をより確かなものにする。	
	食健康科学研究特別実験		研究テーマを自覚し、実験計画を立案し、計画的に実施する。またこのため指導教員等と積極的・自発的なディスカッションを行う。研究成果の学術論文を執筆し、世界に公開する。後輩指導、研究室活動を通して研究グループのマネジメント能力を身につける。最終成果として博士論文を完成させ、公聴会においてプレゼンテーションを行う。 (1 井上裕介)生活習慣病を改善する食品の探索とその機能解明 (2 大西浩史)老化やストレス応答を制御する分子シグナルの研究 (3 粕谷健一)生分解性プラスチックが拓く環境調和型社会 (4 木村孝穂)リポ蛋白リパーゼによる脂質代謝メカニズムの解明 (5 薩秀夫)疾病予防・健康増進が期待される食品機能成分の探索および解析 (6 橘 熊野)バイオベース材料と生分解性材料で食品容器包装を作る (7 鳥居征司)食栄養科学研究から老年疾患の克服を目指す (8 井手野由季)女性の生活習慣と健康に関する疫学研究 (9 大重真彦)自然界からの有用物質の探索 (10 小崎大輔)クロマトグラフィーと質量分析などを用いた中心炭素代謝における主要代謝物の測定と発酵食品への応用に関する研究 (11 島孟留)脳機能を高める運動・食習慣の探求 (12 杉山友太)腸内細菌叢制御を介したヒト健康の促進 (13 武野宏之)食品ゲルのテクスチャーや構造を調べる (14 谷野孝徳)静電気技術を駆使して微生物と上手に付き合う (15 常川勝彦)臨床検査データを活用した減量に伴う体内のエネルギー利用状況の変化の解明 (16 長井万恵)女性のライフコースにおける健康問題についての疫学 (17 樋山みやび)生物発光研究 (18 町田大輔)食生活と健康/Well-being	
	食健康科学研究特別演習		各研究室・研究グループにおけるゼミ等に主体的・計画的に参画する。具体的には文献調査およびプレゼンテーション、学会発表のための準備とプレゼンテーション、他分野の研究者らとの積極的なディスカッションを行う。加えて後輩指導、研究室活動を通して研究グループのマネジメント能力を身に付ける。	

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
就業力	専門実践インターンシップ		修得した学問を企業において実践的に活用する能力を培うために、事前教育を含めて3ヶ月程度の長期間の企業におけるインターンシップを行う。事前教育としては、企業におけるマナー、知的財産、安全管理について教育する。加えて、派遣先の企業およびそこでの職務に応じた周辺分野の教育も行う。派遣先企業の担当者との協議を基に経過報告書を作成することを義務づけ、最終的な報告書を提出させ、最後に発表会を開催しそこでの発表・討論を経験させる。	
	研究人材就業力養成基礎		企業人講師を中心に、社会人としての基礎力と、産業界における研究開発者として活躍するために必要な知識・スキルを、ロールプレイング形式を多用し修得する。価値創造に必要な、企画・研究開発・生産・販売に至る一連の企業活動を概観する。さらに、企業における価値創造を行う際の思考法を身につける。加えて、協業する際のビジネスマナーの基礎も学ぶ。これらの多くは、体験学習形式を通して行われる。	
	実践アントレプレナーシップ特論		起業を考えている、あるいは企業内での新規事業担当者を目指す者を主な対象として、新たな価値を市場に提供するために必要な基礎知識を修得することを目的として、事業化に必要なマーケティングやデザインシンキング的思考など市場経済に即した計画立案や意思決定の方法論を学ぶ。また、企業運営に必要な経営戦略等について、基礎的な考え方を修得する。	
	実践研究リーダーシップ特論		マーケティングから企画・研究開発・生産・販売に至る一連の企業活動を概観する。多くの人々の連携による企業活動を指揮するための組織経営論と技術経営論（MOT）を学ぶ。組織経営論においては、研究開発の成果をより高めるためのマネジメント力の一つであるヒューマンスキルを中心に、ファシリテーションやコーチングの基本を修得する。MOT においては、求められる商品や技術のテーマ設定に必要なコンセプチュアルスキルを学ぶ。これらを活用し、研究リーダーとしての計画立案と管理のポイントを修得する。	
	実践グローバル研究特論		海外勤務を想定した実践的な英会話をロールプレイング形式で身につける。また、海外で働くために必要な種々の文化的背景を理解できるようになる。また、実際に海外で就職するための活動手段について事例を交えて講述する。実践英会話以外の講義はすべて日本語で行われる。	
選択科目（	環境材料科学特論		プラスチック消費は、生活を便利で衛生的にする反面、温暖化やごみ問題など様々な問題を引き起こす。これらを解決に導くためには、環境に配慮した材料を利用することが望ましい。本講義では、環境材料とは何かを社会的側面から考え定義付ける。さらに、環境材料の先端研究について講述すると同時に、議論する。	
	食品プロセス工学特論		工業製品としての食品を開発するうえで、生産技術を理解することは重要である。特に化学工学的な知識と技術は加工処理における生産性と食の安全を確実にするため、習得するべき課題である。この講義では化学工学をベースとした食品生産技術を学び、食品加工に必要な単位操作と衛生管理を理解し、提案できるようになることを目的とする。 (オムニバス形式 全15回) (9 大重 真彦／9回) 化学工学と食品生産、食品物性に関する総論 粉粒体、流体、伝熱に関する単位操作 授業全体を総括する総合討論 (14 谷野 孝徳／7回) 伝熱、拡散、生物・酵素に関する単位操作 食の安全に関するシステム 授業全体を総括する総合討論	オムニバス 共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門	(A) 食品工学系	食品高分子特論		食品は単なる栄養源ではなく、そのテクスチャーや保存性は、構成する多様な高分子によって決まる。また、食品の加工・運搬・保存には容器包装が用いられているが、その素材としては高分子が用いられている。本講義「食品高分子特論」では、食品の化学組成から、ゲルなどの高次構造とテクスチャーの関係、食品に不可欠な容器包装まで、多岐にわたる側面を深く掘り下げる。最先端の科学的知見と、現代社会が直面する環境・安全問題を統合的に理解することで、学生が食品科学分野における新たな研究課題を発見し、持続可能な未来に貢献するための基盤を築くことを目的とする。 (オムニバス形式 全15回) (6 橘熊野／8回) 食品容器包装とその材料、合成高分子包装材料の生産、食品接触材料からの物質移行とそのリスク評価・食品高分子に関する国内外の規制動向、最先端の食品高分子、食品高分子先端研究に関する発表、食品高分子先端研究総合討論 (13 武野宏之／7回) 食品高分子の物理化学的性質と物性制御、食品多糖類の構造と物性機能、食品高分子間の相互作用と食品物性制御、食品高分子先端研究に関する発表、食品高分子先端研究総合討論	オムニバス
		食品分析科学特論		食品の質を評価するためには分析科学的な知見が必須となる。本講義では、食品の評価手法を修得することを目的に、食品の質にとって重要な指標となり得る成分を分析するための手法として、各種分析手法について講義すると共に、実際に五大栄養素・非栄養素の分析・評価方法について学ぶ。 (オムニバス形式 全15回) (5 薩 秀夫／7回) 食品中に含まれる栄養素・非栄養素の分析および分析評価について、食素材の前処理なども含めて具体的に紹介するとともに、ディスカッションをおこなう。 (10 小崎 大輔／8回) 食品中の多様な成分の測定に用いられる手法を取り上げ、当該分析手法の原理や機器の解説をするとともに、ディスカッションを行う。	オムニバス
	(B) 健康科学系	食健康科学特論		本特論では、食健康に密接な代謝機能制御系の遺伝子機能について最近の進歩を概説する。学生は、先端研究の一端を理解し、提案できるようになることを目的とする。	
		栄養代謝学特論		食習慣は身体の機能に様々な影響を及ぼす。食品の栄養素についての代謝機構と生活習慣病について学ぶ。具体的な例を示した後、受講者が文献調査を行い、ヒトの健康に影響を及ぼす栄養素について紹介する。その後ディスカッションを行い、理解を深める。	
		ヘルスサイエンス研究特論		科学的根拠に基づく人類の健康の維持と増進にむけ、分子、細胞、個体、社会と異なる階層で生命活動からヒト健康について理解を深める。この講義では、生命科学や医学研究、疫学研究など、階層横断的に最新の研究成果について学び、健康課題の解決にむけた研究に必要な思考、考察、研究立案能力の確立を目的とする。 (オムニバス形式 全15回) (2 大西 浩史／5回) 生命科学、医学の研究手法とその成果について解説し、理解を深める。 (8 井手野 由季／5回) 医学・保健学領域における研究法について、主に観察研究、メタアナリシス、保健統計等のデータの二次利用について解説する。 (16 長井 万恵／5回) 臨床研究における研究計画から統計解析計画およびデータハンドリング、実際の解析例など実例をもとに解説する。	オムニバス
		統合予防健康科学特論		疾病の発症を未然に防ぎ、健康寿命の延長と心身の幸福を追求する方法について学びます。医学、栄養学、行動科学、運動科学、環境科学、新しいテクノロジーなどの技術を融合し、予防を軸にした新しい健康戦略を構築・実践するために、自ら問題提起し、文献を参照し、研究計画を立案するための基本知識の習得を目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
選択 科目 (イン テン シブ)	食健康科学概論		食健康科学に関する最新の動向を食品工学及び健康科学の2分野からの視点で紹介するとともに、その内容について議論することにより、食健康科学についての理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) 食健康科学に関する最新の動向を踏まえ、それぞれの専門分野から知見を詳しく講述する。 (1 井上裕介／1回)生活習慣病を改善する食品の探索とその機能解明 (14 谷野孝徳／1回)静電気技術を駆使して微生物と上手に付き合う (17 樋山みやび／1回)食品に含まれる成分の分析化学 (2 大西浩史／1回)生涯を通じた健康を科学的に創出する (3 粕谷健一／1回)生分解性プラスチックが拓く環境調和型社会 (12 杉山友太／1回)腸内細菌叢制御を介したヒト健康の促進 (7 鳥居征司／1回)食栄養と健康への影響を生体解析で科学する (8 井手野由季／1回)女性の健康のためのライフコース疫学 (5 薩秀夫／1回)機能性食品成分の生理機能とそのメカニズム解析 (9 大重真彦／1回)自然界からの有用物質の探索 (4 木村孝穂／1回)血液・尿検査による健康被害の評価方法 (13 武野宏之／1回)食品ゲルのテクスチャーや構造を調べる (6 橘熊野／1回)バイオベース材料と生分解性材料で食品容器包装を作る (18 町田大輔／1回)ローカルフードシステムと健康 (11 島孟留／1回)脳機能を高める運動・食習慣の探求	オムニバス
	食品生産工学特論		食品の多くは加工された形で生産・供給される。加工工程では食に適した成型、輸送に適した成型、し好に合わせた成型がなされる。加えて微生物汚染制御等の生産プロセス設計が重要である。本特論を受講することにより、食品生産過程における成分変化および安全性、加工にかかわる生産プロセス、工程における単位操作や装置、センサー、さらには包装材料などについて幅広く理解できるようになる。 (オムニバス方式／全8回) 食品生産プロセスに関する最新の技術動向を紹介するとともに、その内容について議論する。また、食品成分の機能性や包装材料などについて、実務経験を有する外部講師が講述する。 (19 岡見雪子／1回)食品加工と栄養 (23 スレーントーン プウビライ／1回)食品包装材料の基礎 (24 高橋亮／1回)美味しく食べる (26 秦野賢一／1回)食品廃棄物を使った作物の高付加価値化 (27 浅川直紀, 29本島邦行／1回)食品生産のためのエレクトロニクスデバイスI/II (41 向井克之／1回)食品色素成分とその機能性 (20 鈴木美和／1回)食品包装材料のための高分子科学 (40 清水敏之／1回)食品包装材料の概要	オムニバス 共同 (一部)
	食健康医科学特論		食生活は日々の健康、そして加齢に伴うさまざまな疾患に最も影響を与えるファクターである。本特論では、食品由来の栄養物質に加え、添加物や抗生物質などの化学物質について学び、広義の意味での食の安全について理解することを目指す。また、食由来の栄養素の体内動態および生体調節機能について学び、健康増進および疾患予防における食の重要性を理解することを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) 食健康科学研究に関わる教員がそれぞれの専門分野における最新研究を紹介しながら講義を行い、広範で複数のまたがる研究領域を繋げて全体を理解する。 (7 鳥居征司／1回)食品成分と生体機能 (30 松井弘樹／1回)脂肪酸の組成と健康 (2 大西浩史／1回)モデル動物を用いた脳機能解析 (38 葭田明弘, 4 木村孝穂／1回)食物の機能性研究の実際 (32 小林雅樹／1回)腸内細菌と栄養素、糖尿病との関連 (42 村上正巳／1回)食健康と臨床検査 (15 常川勝彦／1回)必須微量元素と生活習慣病 (8 井手野由季, 16 長井万恵／1回)女性の健康のためのライフコース疫学 (36 福中彩子／1回)金属と食と健康 (31 宮内栄治／1回)食を介した腸内細菌制御 (28 佐々木伸雄／1回)腸内環境を自在にデザインする (39 吉成祐人／1回)食をコントロールする生体内シグナル (33 小田司, 34 河野大輔／1回)細胞老化と食 (35 中川祐子／1回)味を感じるメカニズム (37 松永耕一／1回)ホルモン輸送概論	オムニバス 共同 (一部)